





「鳥の連作 No.13」1975年 木版画



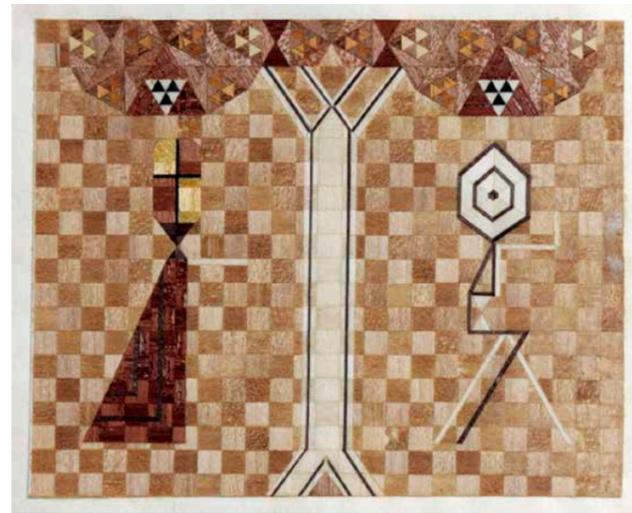
「青の魔法」1964年 水彩



銅版絵本「地上の祭」饗宴 1938年 版画



ステンシルの版画作品を制作中の武井武雄 1951年



「木魂 (こだま)の伝記」1957年 私刊豆本No.31 寄木細工



「おつきさまのぼうし」1956年

# 夢を奏でるアート

## 今なお新しい武井武雄の世界

信州岡谷出身の芸術家 武井武雄（1894 - 1983）。誰もが絵本や子ども向けの絵をイメージする「童画」という言葉の生みの親です。没後30年以上が過ぎた今、若い女性を中心に武井芸術のファンが増え続けているといえます。彼の芸術がなぜ今注目されるのでしょうか。彼の作品と人生を紹介している「イルフ童画館」を、岡谷市の中心市街地に訪ねました。

迎えてくれるモニユメントは、武井が創作した物語の主人公「ラムラム王」。単純なかわいらしさとは別の、何かを内に秘めた表情が印象的です。武井は自分をその生まれ変わりと語り、ラムラム王のイニシャルである「RRR」を使っていた時代もあるのだとか。また、館名の「イルフ」は「古い」を逆さに読んだ彼の造語だそう。武井武雄とは何者？そんな思いが募ります。

武井が「童画」の新語を掲げ、子どものための絵画の創作に精力的に取り組むようになったのは大正中期から昭和前期。「赤い鳥」など質の高い児童雑誌が続々と刊行され、名だたる作家が童話や童謡を発表した時代です。しかし、そこに掲載される絵の多くは画家がアルバイト感覚で描いたもの。当時は子ども向けの作品や作家への評価が低かったのです。東京美術学校を卒業後、油彩画家として歩み始めていた武井は、そうした時代にあえて「子どもの心に届く絵」を描くことに情熱を燃やし、幼児向け絵本『コドモノクニ』の創刊に参画。大人をも夢中にする絵や絵物語を次々と世に送り出し、童画を芸術の一分野として確立していきました。

展示されている絵雑誌の原画やタブローの数々は、構図も色彩も隙を感じさせない完成度の高さ。武井がいかに真剣に子どものまなざしを受け止めていたかがうかがえます。

生涯、童画家であることを誇り、仕事をした武井ですが、芸術家としての活動領域はずっと幅広く、版画、図案、デザイン、そして自ら「刊本作品」と名付けた本、さらには日本中の郷土玩具の収集、陶芸や木彫などのクラフトワークにも情熱を注ぎ、それぞれに並外れた才能を発揮しています。なかでも本そのものを総合芸術と位置づけて創作した「刊本作品」は、まさに「本の宝石」。1冊ごとに異なる繊細な美しさに、持つ手が震えます。そう、ここでは希少な刊本作品の实物を手にとることができるのです。作品を「見る」だけではなく、肌で「感じる」ことができるのもこの美術館の魅力です。

館長の山岸吉郎さんは、武井の人と作品を深く理解する一人。その魅力を多くの人々に伝えたいと、出版、放送等のメディアや服飾デザインなどとのコラボレーションを企画し、広く発信を続けています。

武井が岡谷で過ごしたのは少年時代までと疎開していた50代前半のわずかな期間に過ぎませんが、彼のふるさとであることは岡谷の誇り。そんな思いから、市民が武井作品や多彩な芸術に触れ合う機会として館内外でのワークショップも積極的に開催しています。

「オランダのアムステルダムはゴッホを、またスペインのバルセロナはピカソを誇りとし、それぞれの美術館を中心に芸術性の高い風土を育んでいます。岡谷も、当館を拠点に地域全体が武井芸術に満ちたおとぎの街のようになっていく可能性を秘めているのです」

向き合っていると、心の中に小さな光が灯るような気持ちにさせてくれる武井作品。心に届く美的メッセージが、現代を生きる人々を魅了してやまないのかもしれない。



イルフ童画館館長 山岸吉郎さん



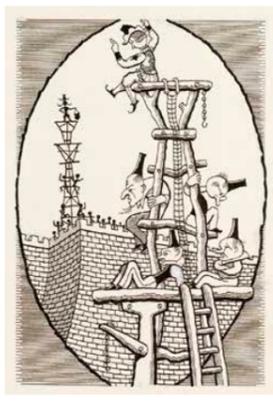
## 武井武雄アートの さらめきに触れるまち

武井武雄の生まれ故郷、信州岡谷市のイルフ童画館は、名前は「童画館」ですが、武井武雄の生涯と作品の全容に触れることができる貴重な美術館。また、館の周辺には、武井作品のモチーフをあしらったストリートファニチャーやモニュメントに出会える場所が点在します。芸術的な魅力と価値が改めて注目されている多様な武井アートを体感してみませんか。

武井武雄が創作した冒険ファンタジーの主人公「ラムラム王」。武井は画家であると同時に、希代のストーリーテラーでもあった



「星期日」1965年 タブロー  
同名の美しい詩と対になった連作作品。これを陶板で再現したレリーフがイルフ童画館壁面を飾っている



## 大人の心をも 揺さぶる童画

「童画」という言葉を編み出し、子どものための作品制作を「男子一生の仕事」と決意して取り組んだ武井武雄。その作品群は、ユーモアや楽しさ、優しさに満ちている一方で、子どものまなざしを真剣に受け止めるに足る緊迫感のある美しさをたたえています。印刷を前提とする作品からも、タブロー（一枚絵）からも、子どもにこそ真の芸術を見せたいと願う武井の想いがほとばしり出ているようです。



## 美しさ、楽しさ、緻密さ、メッセージ...



「鳥の連作No.4」1967年 木版画



武井武雄は、エッチングをはじめ石版画、木版画など、さまざまな版画手法を用い、抽象表現、図案的な表現、童画風の表現など、一人の作品とは思えないほど多種多様な表現を展開しました。高度な芸術性とグラフィックデザインのような洒落な表情を兼ね備えた作品の数々は精緻な構成と工程を経て完成。几帳面で妥協を許さない武井の個性も表現されているといわれます。

## ファンタジックで 精緻な版画



「夢を造る工場」1963年 木版画

## イルフ童画館で武井芸術の広がりを見る

### 静謐な本の宝石、 刊本作品

武井武雄が生涯をかけて制作した139冊(各300冊限定で会員に頒布)の「刊本作品」は、まさに「本の宝石」。絵、文字、装丁、函、印刷方法に至るまですべてを作品ととらえ、1冊ごとに異なる特徴を持つ芸術作品に仕上がっています。企画、設計から各作品の実制作を手がける職人探し、交渉、監修まで、すべてを武井自身が情熱を注いで行いました。ため息が出るほどの美しさと独創性に魅了されます。



刊本作品No.108「ナイルの葦」1980年  
パピルスを栽培、収穫し、パピルス紙を作って本を制作し、4年半の歳月を要した。エジプトを舞台とする物語



刊本作品No.59「人魚と嫦娥(じょうが)」1966年  
富山の高岡螺細工を駆使した幻想的な絵本。人魚と彼女を見守る嫦娥=月の切ない物語

### 武井アートの街を散策

イルフ童画館の正面には「ラムラム王」が。童画館向かいの商業施設は、その名も「イルフプラザ」。そこからJR岡谷駅に向かって伸びる200m余りの「童画館通り」やJR中央線の上に架かる丸山橋でさまざまな武井作品のモチーフに出会えます。街歩きがそのままアート散策になるひとときをお楽しみに。



### イルフ童画館 武井武雄の世界に触れる美術館



ユーモア、ときめき、思索、喜び、不思議...いろいろな感情や思いを呼び起こしてくれる武井芸術の世界。その多様な作品を収蔵展示し、没後30年以上を経て今なお新鮮な輝きを放つ武井芸術の魅力に触れることができる美術館です。童画、版画、刊本作品に加え、「余技作品」や復元アトリエなど武井の人となりや人生の歩みを知ることができる貴重な資料の数々に出会えます。

- 所在地/長野県岡谷市中央町2-2-1
- 開館時間/10:00~19:00
- 休館日/水曜日(祝日の場合は開館)・年末年始、展示替えによる臨時休館日あり
- 入館料/一般500円、中高生300円、小学生150円
- ※世界的な絵本作家モーリス・センダック作品の展示も見応えあり(展示期間は要問合せ)
- ミュージアムショップはオリジナル商品多数。カフェ「ラムラム」併設

## ミヤマがご提案する汚染土壌の浄化対策です

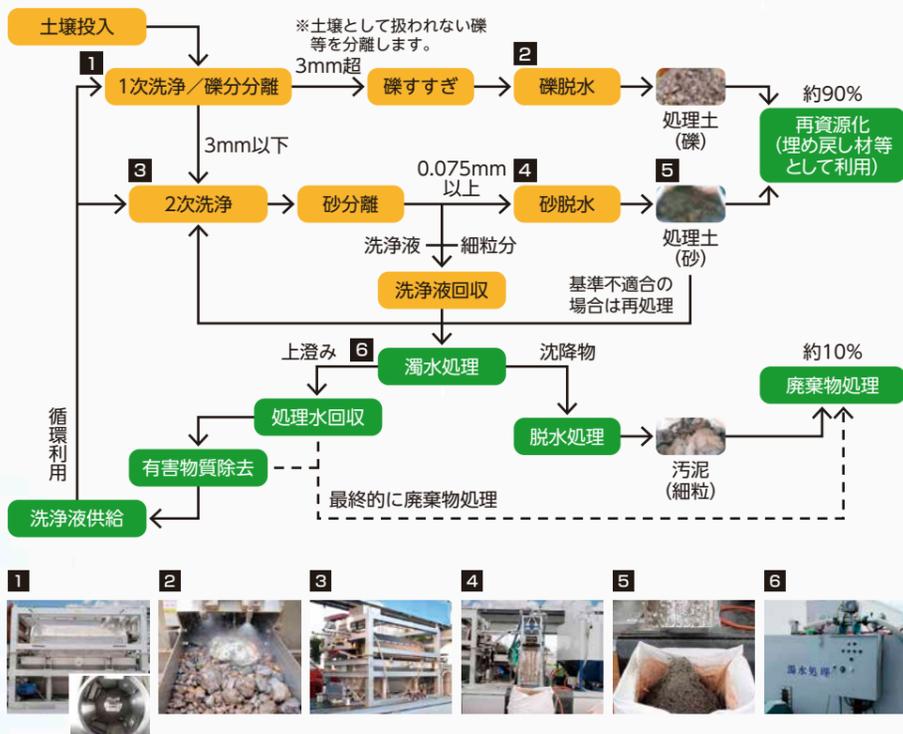
目に見えない地中の環境汚染に対し、事前の調査・分析により汚染物質の成分や土壌の性状、拡散状況等を踏まえたうえで、環境負荷の少ない最適な手法をご提案します。

### 汚染土壌の現地洗浄

自社開発した土壌中の有害物質を効率的に液中に溶出する科学洗浄技術で、これまで困難とされたセレンや鉛、ほう素、ふっ素、六価クロム等、第二種特定有害物質による高濃度汚染土壌の「現地洗浄」を実現します。土壌搬出のない現地処理は環境負荷が低いことはもちろん、搬出や埋め戻し等に掛かるコストも大幅に削減が可能です。

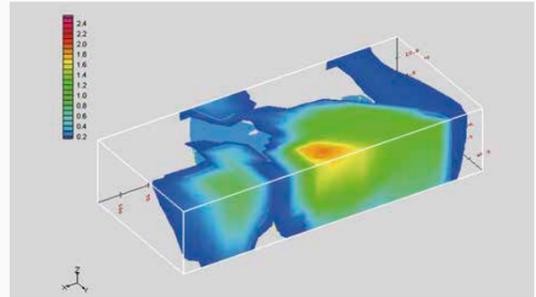


#### 【土壌洗浄フロー】



### 土壌汚染調査

最適な浄化対策を実施するためには、汚染の状況を正確に把握することが不可欠です。ミヤマでは土壌汚染対策法に基づく調査に加え、自主調査も承ります。土地取引、工場移転、漏洩事故、事業譲渡等に伴う調査実績があり、ケースに応じて土地の履歴や土質、地下水経路、汚染経過等の調査を行います。また汚染の拡散シミュレーションや対策計画の策定なども行っており、状況に合わせた対策をご提案します。行政対応についてもご相談ください。 指定調査機関(2003-4-1022)



#### 【調査・対策事例】

- **工場跡地の売却**  
土壌調査により土壌汚染を確認。跡地利用が決まっていたため、早急に対策計画を提案・実施。円滑に土地取引が完了。
- **工場用地の取得**  
工場用地の土壌調査で汚染を確認。行政・地権者・地域住民・企業等、関係者の合意が得られる対策を提案。
- **設備からの漏洩**  
改正水濁法に基づく点検業務(ミヤマ実施)により埋設タンクの損傷を発見。土壌汚染が確認されたため行政へ報告し、汚染土壌を処理。他

## 薬を使わず有機物を分解 次世代の水処理装置 ピュアキレイザー

オゾン+紫外線+光触媒による促進酸化処理法により、薬を一切使わず強力に有機物を分解する水処理装置で、薬剤等を使用するものに比べランニングコストを大幅に軽減することが可能です。用途に合わせて多様なサイズをラインナップしていますので、お気軽にお問合せください。



#### 【こんな用途に】

##### クーリングタワー

- 水槽内や羽根の藻抑制
- レジオネラ菌の除菌
- 清掃回数の低減及び効率アップ

##### スクラバー

- 悪臭物質(硫化水素系)の分解
- 一般細菌、従属細菌の除菌

##### めっきライン

- 配管の目詰まり解消
- バクテリアの繁殖抑制
- イオン交換樹脂の延命

#### 【促進酸化処理法とは】

オゾンや過酸化水素などと紫外線を使い、活性酸素の中でも最も強力なヒドロキシルラジカルを発生させて水中の環境汚染物質を酸化分解する方法です。

- 酸化力は塩素の20倍以上、オゾン単体の5倍以上
- 効率よく有機物を分解(CO<sub>2</sub>、水、窒素ガスへと分解)
- 副生成物も少なく環境負荷を低減